

窪田委員（自民会議）

平成 27 年 3 月 5 日  
教育長答弁実録  
（教育委員会）

（問）県立高校の学力向上について

県立高校については、これまで学力向上対策に積極的に取り組んできた結果、大学入試センター試験の全国平均点以上の得点者数が、平成 12 年度と比べ倍増するなど成果が挙げられているが、ここ数年の大学への進学状況を見ると、全体として横ばいとなっており、特に難関校への進学が頭打ちになっている。

これは、難関校への進学を望む生徒が減少しているのか、本県の教育内容が難関校が求める能力やレベルに適応したものとなっていないのか、その要因をしっかりと分析し、それに対応したカリキュラムを作成するなどの対策を打つ必要があるが、このような現状をどのように分析し、来年度どのように取り組むのか、教育長に伺う。

（答）

ここ数年、県立高校の難関大学出願者数は増加している一方で、合格者数は伸び悩みの状況がございます。

こうした状況の要因といたしましては、大学入試センター試験において、複数の知識を総合的に用いて回答するなどの深い思考力、判断力が求められる設問が増えている中で、これらの問題の正答率が低いということがあげられます。

このような課題を解決するためには、授業において学習者が自ら課題を発見し解決していくような「主体的な学び」を促す学習活動を構築することが必要でございます。

教育委員会といたしましては、次年度、高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクトにおきまして、パイロット校を指定し、生徒の主体的な学びを促すためのカリキュラムや指導・評価方法の研究開発を進めますとともに、その成果やノウハウを全県に普及させていくことによりまして、授業を変革し、深い思考力、判断力を身に付けた生徒の育成に取り組んでまいります。